

りゅうぜん じ
竜禅寺三仏堂

／国指定文化財 建造物

延長2(924)年創建といわれる三仏堂は、取手市内唯一の国指定重要文化財です。現存する建物は、その建築様式と内部にあった永禄12(1569)年の木札から、室町時代後期のものと推測されています。正面三間、側面三間で、左右と背面の三方に裳階(もこし)が付く形式の建物は他に例を見ず大変貴重です。内陣には禅宗様の須弥壇が置かれ、三仏堂の名称の由来ともなった釈迦如来、阿弥陀如来、弥勒菩薩の三体の仏像が安置されています。



三仏堂



三体の仏像

取手市 悠久の歴史遺産

Historical heritage of Toride

長い歴史と多くの史跡を有することで知られる取手市。貴重な歴史遺産を、これからもこのまちの人々と共に大切に受け継いでいきます。

Toride City is also known for its many historic sites. We intend to protect this precious historic heritage to ensure it survives into the future.

取手市有很多名胜古迹，作为历史名城广为人知。今后我们也会与这个城市的人们一起珍惜并传承宝贵的历史遗产。



本多作左衛門重次墳墓

ほんださくご えもんしげつぐ 本多作左衛門重次墳墓

／県指定文化財 史跡

本多作左衛門重次[1529～1596]は、清康・広忠・家康と徳川三代に出仕した譜代の臣で、戦場での鬼神の如き働きから「鬼作左(おにさくご)」と呼ばれました。天下人となった豊臣秀吉の逆鱗に触れたことで、家康もやむなく蟄居(ちつきよ)を命じ、そのまま許されること無く取手の地で68歳で没しました。「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」は、本多重次が戦場から妻に宛てたといわれる日本一簡潔な手紙として広く知られています。



大日山古墳

だいにちやま 大日山古墳

／県指定文化財 史跡

古墳時代後期の築造とみられる円墳(推定直径18m、高さ2.8m)で、墳丘上には岡神社が祀られています。この地域に見られる古い石碑や石仏の多くは、中世から近世にかけて栄えた大日信仰の名残であり、そこから大日山の名前が付けられたと考えられています。地元では平将門の墓と伝えられており、古墳の横の広場には、将門の愛妾(あいしょう)桔梗(ききょう)が住んでいた朝日御殿があったとも言われています。

こうげん じ じ ぞう 高源寺地蔵ケヤキ

／県指定文化財 天然記念物

夢窓疎石(むそうそせき)が開いたと伝えられている臨済宗普蔵山高源寺の境内のケヤキは、推定樹齢1600年、目通り幹囲約10mという県指定天然記念物の大木で、幹から伸びる大枝はさらに枝分かれして広がっています。中心の幹は、中が大きく空洞になっており、そこに安置されている地蔵尊が、安産・子育てにご利益があると言われていたため、多くの参拝者が絶えず訪れています。



地蔵ケヤキ

ちょうぜん じ さん せ どう
長禅寺三世堂

／県指定文化財 建造物

長禅寺は、平将門が祈願寺として建てたといわれています。山門をくぐり正面に建つ三世堂は、内部が「さざえ堂」という形式で、堂内を順路に沿って進めば、参拝者が交差せずに回れる巧みな構造になっており、全国でも6棟しか残っていません。また、合計百体の観音像を安置することから、百観音堂とも呼ばれ、特別拝観日に一般公開され、堂内の不思議な空間を体感することができます。境内には、江戸時代後期の俳人「小林一茶」の句碑や、河童の絵で有名な「小川芋銭（おがわうせん）」の景慕之碑が立っています。



三世堂



観音堂

とうぜん じ
東漸寺観音堂 | 山門

／県指定文化財 建造物

東漸寺は興隆山と号する天台宗寺院で、旧寺田村（現取手市本郷）の開発に伴って天正2（1574）年に創建されたと伝えられています。寛文7（1667）年に建立された観音堂は、三間四面（さんけんしめん）の寄棟造で、正面には唐破風（からはふ）の向拝が見られます。元禄3（1690）年建立の山門は、三間一戸の単層八脚門（たんそうはっさくもん）、切妻（きりつま）、茅葺（かやぶき）の造りになっています。市内で文化財に指定されている建造物の中では、竜禅寺三仏堂に次いで、観音堂は2番目、山門は3番目に古いものです。



山門



特別拝観の様子

旧取手宿本陣染野家住宅

／県指定文化財 建造物・市指定史跡

染野家は代々取手宿の名主であり、貞享4（1687）年に水戸徳川家より本陣に指定されると、歴代の水戸藩主をはじめ、多くの大名や武士たちが宿泊や休憩に利用しました。水戸街道の宿場から発展した取手を象徴する文化財であり、水戸街道で唯一、一般公開している本陣建築で大変貴重な建物です。主屋は、寛政6（1794）年に焼失し、翌年再建されたものです。寄棟造・茅葺・桁行20m・梁間14mの大型民家のつくりで、式台玄関の上部には重厚な入母屋破風（いりもやはふ）が設けられ、内部は本陣部分と染野家居住部分に分かれています。



上段の間



入母屋破風の式台玄関